

2020 年度 分野別計画進捗等報告書	体系番号 05010103
---------------------	------------------

1.計画名称

茅野市道路河川等整備計画

2.計画全体の進捗状況及び総合評価

進捗評価	おおむね順調	説明	橋梁修繕は、第2期橋梁長寿命化計画(R2～R6)、舗装修繕は、第2期舗装集中修繕事業(R2～R6)計画に基づき、カープミラー他道路付属施設等の更新は、道路パトロールや地元要望などからの情報提供をいただき、速やかに進めることができている。 2級8号線の第1期工区が供用開始(R3.3.31)する。
今後の重点化施策番号	3	説明	橋梁修繕は、第2期橋梁長寿命化計画に基づき、舗装修繕は、第2期舗装集中修繕に基づき、計画的に進める必要がある。また、交付金事業の舗装修繕事業は、交付金の内示率が低く、計画的に進捗できるか不安であり、財政面への影響が課題ではあるが、引続き両計画を計画的に進めることが、喫緊の課題である。関係する市民団体はない。

3.各施策等における評価内容と改革改善

区分	施策名称	進捗評価	総合評価		改革改善の具体的内容
			主な取組内容や成果	課題	
1	道路・河川管理対策	おおむね順調	1 定期的な道路パトロールを行っていることで一定の成果はある。 2 道・水路の境界による問題の発生を抑制するために、未登記道路の解消を継続的に行っている。	1 危険箇所を早期に見出すための見直しが必要。 2、未登記道路の解消は継続的に行っているが、境界の確定ができないものや、相続が行われていない土地などがあり、解消できない案件がある。	1 精度の高い情報提供を得るためにHP、広報等で周知しているが、引き続き研究・調査する。 2 日々の境界立会いにおいて解消可能な場合は、後回しせず関係者と協議する。
2	道路・河川維持対策	おおむね順調	地区要望箇所は概ね対応した。(90.3%)	市内の施設の老朽化が進行し、その規模も大きくなってきており、一箇所にかかる修繕費が増大傾向にある。	最少予算で最大効果が出るような工夫。 新工法の導入など
3	道路・河川建設対策	おおむね順調	舗装集中修繕事業は、第2期工事(R2～R6)に位置付けた箇所を着手した。 交付金事業はメンテ事業(橋梁修繕、点検)は第2期橋梁長寿命化計画に基づき計画的に進められ、2級8号線は第1期工区を開通することができた。1級18号線は設計業務を繰越により対応中である。	メンテ事業(橋梁修繕)について経過観察中の20橋の修繕方針を検討する必要がある。 交付金事業について、有利な交付金(強硬化事業)を検討する中で、2級8号線、1級18号線の年次計画を再検討する必要がある。	メンテ事業(橋梁修繕)について、経過観察中の20橋の修繕方針を検討し、安価な工事費で対応できる橋梁については工事を検討する。 2級8号線、1級18号線の用地交渉において地権者との折衝状況から優先する事業内容を検討し、全体計画を再検討する。
4	交通安全対策	おおむね順調	ハード面では、緊急性がある老朽化ミラーの更新を積極的に実施している。また、区・自治会等からの要望に対する整備も優先度により実施している。 ソフト面についても、関係機関と連携して教室を実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて多くの教室が中止になった。	昨年度と同様に施設整備に多くの費用が発生する。特に除雪で削れる道路区画線の更新は優先度が低くなりやすい。また、歩行者を守るポールを設置について要望が多いが、予算上、設置が限定してしまう。	各交通安全施設の設置に係る優先順位付けをしながら、更新が停滞している主要路線の路面標示を今後も積極的に実施する。
5	地籍調査対策	おおむね順調	・玉川8区(FⅡ-2,G,H工程)0.18km ・玉川9区(C,E,FⅠ,FⅡ-1工程)0.20km の実施	国の指示で「国土強靱化、防災減災対策」のエリアへの移行を促されているが、玉川地区のグリーンライン東側(11区)は、2022年までは住民説明済みで、国の指示に沿うことが出来ない。その間は補助金の減額は認めないが、玉川の計画完了次第、宮川新井・高部に計画区域を変更する。	国の指示で「国土強靱化、防災減災対策」のエリアへの移行を促されている。玉川地区を継続して行うことも考慮したが、補助金が減額されることとなるため、玉川は11区までで、一旦終了し、糸魚川静岡構造線のエリアである宮川新井・高部に計画区域を変更する。

※5つ以上の場合は裏面へ

4.関連市民団体等の主な意見及び対応のポイント

関連市民団体等名称		主な意見	市の考えや対応など
開催回数		関連市民団体はありません。	
参加延べ人数			

5.添付資料

別紙「施策評価シート」